

佐賀県知事

山口祥義



すべての人に スポーツのチカラを。
新しい大会の幕開けでございます。

本日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、国民体育大会から
国民スポーツ大会へと変わる新しい大会、
「SAGA2024」は、総合開会式の日を迎えました。
全国各地の選手、関係の皆様、ようこそ佐賀県へ！
佐賀県民を代表して、心から歓迎いたします。

高い志を胸に抱くアスリートのプレーは、人の魂に火を灯します。
その火が炎となり、光り輝く先に、アスリートを高みに導く
筋書きのないドラマが現れます。
そして、私たちに、喜びも、時には悲しみも、そして、湧き上がる
勇気も与えてくれます。
我々はこれこそ、スポーツの根源的な力、真の価値と考えます。
スポーツは、コロナ禍、世界の紛争の中、制約を受けました。
しかし、それを知る私たちだからこそ、
スポーツのチカラを信じていることができるのではないのでしょうか？

ここ佐賀県は「弥生時代の吉野ヶ里遺跡」、「日本文化が花開いた
肥前名護屋城」、「明治維新の礎を築いた偉人の輩出」など、
日本史転換の舞台にもなりました。
スポーツも、今、転換の時です。

佐賀県は「SAGAスポーツピラミッド構想(SSP構想)」と銘打ち、
スポーツの真の価値を大切にしながら、「する、観る、支える、育てる、
稼ぐ」など、スポーツに様々なスタイルに関わり、
アスリートも、人や地域も輝き続ける社会に挑戦しています。
その佐賀県で最初の国民スポーツ大会が開催されます。

挑戦なくして、伝統なし

これは、佐賀県が世界に誇る

有田焼400年の伝統の中で受け継がれた言葉です。
伝統を守ることより、常に挑戦を続けることで、
それが伝統となる。

この国民スポーツ大会においても、これまでの77回にわたる伝統に
感謝しながら、大会の未来に向けて、佐賀県は挑戦します。

アスリートに最高のパフォーマンスを、観る人に胸が熱くなる感動を、
支える人に心からの喜びを、そして、すべての人が明日への希望を
抱けますように。

皆さん！スポーツのチカラを信じて、一緒に、この佐賀の地で、
全力で駆け抜けましょう！

新しい大会をみんなで創っていきましょう！

ここに、SAGA2024国民スポーツ大会、
新しい大会の開会を宣言します。

公益財団法人日本スポーツ協会

会長 遠藤利明



国の重要文化財に指定されている「吉野ヶ里遺跡」やユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんち」などの伝統行事が根付く佐賀県において開催された、第78回国民スポーツ大会(SAGA2024)は、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、多くの成果と深い感動を残し、盛会裏にその幕を閉じました。

開催に際し、長きにわたり諸準備にご尽力をいただいた役員、係員、ボランティア(サガンティア)の皆様、大会を応援いただいた佐賀県民の皆様はもとより、ご支援をいただきました協賛社様、関係機関・団体の全ての皆様方に対し、心から感謝を申し上げます。

佐賀県選手団の男女総合成績及び女子総合成績ともに第2位という成績は、スポーツ文化の裾野の拡大を目指す「SAGASポーツピラミッド構想」をはじめ、地元開催に向けて努力し続けた佐賀県の結束力が生んだ成果です。各競技で活躍された選手団の皆様に対し、心から賛辞をお贈りいたします。

この大会は、大会のメインメッセージである「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」のもと、大会に関わる「する」「みる」「ささえる」全ての人々がスポーツのオモシロさを体験し、スポーツ文化の新時代を築くべく、ナイトゲームの実施や総合閉会式の屋内開催など、新たなチャレンジが至る所に盛り込まれた大会であり、「国民スポーツ大会」として新たなスタートを切るのにふさわしい大会となりました。

全国各地から参加された選手団や観客の方々は、佐賀県の皆様からの心温まるおもてなしと熱い声援を受け、貴重な思い出を胸に帰郷されたことと思います。

選手の皆様には、この大会で得た貴重な経験を活かし、今後益々のご活躍により、スポーツがあらゆる人々に享受され、誰もが望む社会の実現に貢献いただくことを願っております。

結びに、この報告書が「SAGA2024」の貴重な記録として、また、大会の歴史の節目を飾るものとしても、今後のスポーツの推進に広く活用されますことを祈念いたします。

公益財団法人日本パラスポーツ協会

会長 森 和之



秋篠宮皇嗣同妃両殿下、佳子内親王殿下、高円宮妃殿下の御臨席を賜り、第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」が、盛大に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

本大会は、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに掲げ、「する」「観る」「支える」の観点から、選手も、選手でない人も参加できる大会、エンターテインメント性の高い大会、みんなで力を合わせ、つくる大会を目指した大会であり、選手の皆さまは持てる力を十分に発揮し、素晴らしい大会となりました。

また、選手の活躍に欠かせない「観る」「支える」の観点では、競技会場地をはじめとする市町の多くの方々には、観戦にお越しいただき、大きな声援をいただきました。ボランティアをはじめとする大会運営に携わった方々や審判、競技役員をはじめとする競技運営に携わった方々には、一体となって大会を支え、盛り上げていただき、名実ともに「SAGA2024」は「新しい大会」として開催できましたことを嬉しく思っております。

来年以降、開催を予定している後催県の皆さまにとっても、ひとつの新しい大会のモデルとして受け止められたのではないかと考えております。今後も各開催県が障がい者のスポーツ振興を推進するための要の大会として、県の特徴を活かしたコンセプトを打ち出し、より良い大会になるよう期待いたします。

当協会では、「2030年ビジョン」を策定し、「パラスポーツを普及・拡大する(すそ野を広げる)」取り組みと「競技力向上を図る(山を高くする)」取り組みを「好循環」させることによる「活力ある共生社会の実現(木を繁らせる)」を目指しております。本大会を通じて、活力ある共生社会の実現に向け、着実にパラスポーツの振興が進められるものと確信しております。また、この好循環を途切れさせることなく、次回大会へと継承していき、活力ある共生社会の実現を達成してまいります。

終わりに、大会の開催にあたりご尽力いただきました佐賀県をはじめ、大会・競技運営を支えてくださった多くの皆さまに心より厚く御礼申し上げますとともに、今後の佐賀県における障がい者のスポーツ振興がより普及・発展されることを祈念し、あいさつとさせていただきます。

文部科学大臣

あべ俊子



「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージとして、豊かな自然の魅力にあふれ、歴史と文化が息づく佐賀県において実施されました「SAGA2024 国スポ・全障スポ」が、多くの成果と感動を残し、成功のうちに閉会しましたことを心からお喜び申し上げます。

これもひとえに、佐賀県民の皆さんが、すべての人へスポーツのチカラを届けるよう、県民総参加で諸準備・運営に当たられた賜物であり、その御尽力に深く敬意を表します。

また、参加された選手の皆さんが、日頃鍛えた力と技を存分に発揮し、佐賀県内各地で繰り広げられた熱戦の数々により、全国の皆さんへ、大きな感動とスポーツのすばらしさを伝えることができました。

国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更後初めての開催となった本大会は、エンタメ性の高い式典、ナイトゲームの開催、スポーツホスピタリティ等、スポーツの可能性を追求する「新しい取組」に挑戦され今後のモデルケースとなる大会となりました。

両大会における佐賀県選手団の活躍は目を見張るものがありました。「SAGA2024 国スポ」では佐賀県は男女総合・女子総合とも第2位という成績を収め、前回大会から大躍進されるとともに、今後の競技力の維持・向上、県民のスポーツ振興に寄与する成果を残されました。「SAGA2024 全障スポ」では、佐賀県選手団としては過去最高の133個のメダルを獲得され、大会を盛り上げ、障害者スポーツの普及・発展に大いに寄与されました。これも、選手の皆さんと選手を支える方々の長年にわたる地道な御努力が結実したものであると思います。

今後、日本で開催される様々な国際大会の成功に向け、スポーツイベント等を通じて、日本全国で機運を盛り上げていくとともに、今大会に出場された選手の中から、世界の舞台へ羽ばたくアスリートが数多く輩出されることを期待しております。

結びに、「SAGA2024 RECORDS」が、「SAGA2024 国スポ・全障スポ」の足跡を示す記録として、また、我が国のスポーツの普及・発展に寄与する貴重な資料として、広く活用されることを祈念いたします。